Save the Children

子ども・ユースキャラバン 2022 in 青森・名古屋 実施報告

2022年9月15日

公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン アドボカシー部



Save the Children

目次

1.子ども・ユースキャラバンとは？
2.プログラムの様子
3.参加した子どもたちの声
4.アンケート結果
5.参加した大人の声
6.ファシリテーターの声
7.イベント・アンケートを通じて明らかになったこと



目次

1.子ども・ユースキャラバンとは？
2.プログラムの様子
3.参加した子どもたちの声
4.アンケート結果
5.参加した大人の声
6.ファシリテーターの声
7.イベント・アンケートを通じて明らかになったこと



Save the Children

この夏、青森と名古屋で子どもと政治家をはじめとする大人が意見交換をするイベントを開催





集まってくれた
みなさん
ありがとう
ございました！

青森
2022年7月30日(土)
後援:内閣府、青森県、青森市、
広げよう！子どもの権利条約キャンペーン

名古屋
2022年8月9日(火)
後援:内閣府、愛知県、
広げよう！子どもの権利条約キャンペーン

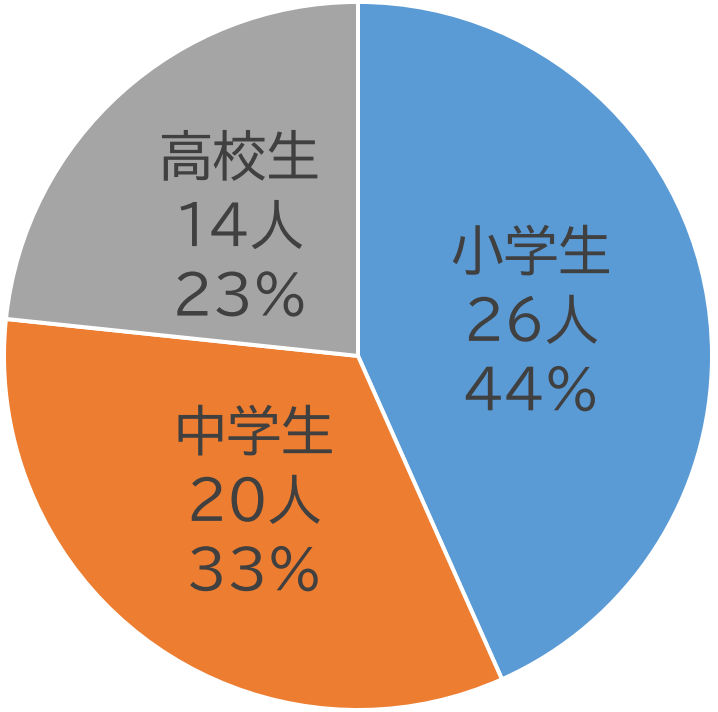
参加者は各会場
9-18才の子ども約30人・大人約10人
でした

Save the Children

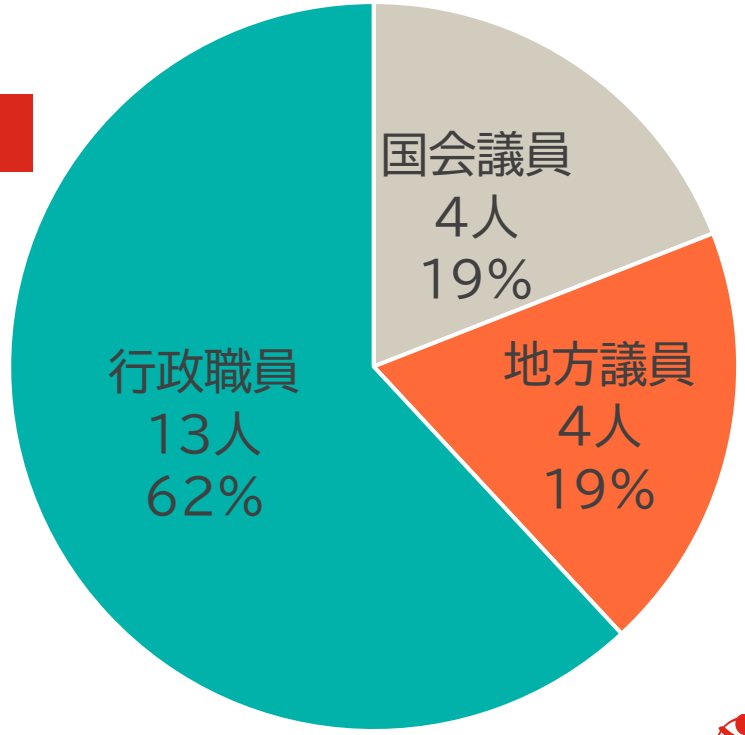
イベント参加者の内訳

2会場合計で子ども60人、政策決定者の大人21人が参加した。
他にファシリテーターとして、地域で子ども支援に携わる団体の大人9人と
ボランティア1人にもご協力いただいた。

子ども



大人



Save the Children

イベントの目的

- 先の国会でのこども家庭庁設置法とこども基本法の可決を受け、子どもを社会の中心に置き、大人が子どもの声を聴き、子どもの目線で子どもの権利を大切にした子ども政策を考えることを中心的な役割の一つとしているこども家庭庁が今後機能していくために、まずは**子ども自身も自分たちが持つ子どもの権利について知り、新しくできるこども家庭庁の役割や目的について知る**こと
- こども家庭庁が発足されるまでの今後の準備プロセスの中でも、今回のイベントのように**当事者である子ども一人ひとりが適切な情報提供を受け、理解し、考え、意見を出し、その意見がどのように反映されたかを知ることができる仕組みづくり**が重要であると考えられ、今後、こども家庭庁や各自治体で実施されるであろう**子どもの意見表明の機会づくりのパイロット事業**として位置づけること

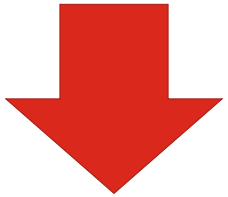
- 子どもの権利やこども家庭庁の役割について子どもたちが単に知識を得るのみでなく、実際に**議員や政府・自治体行政に携わる大人と意見交換をし、意見を表明する機会を持つことで、子どもたちにとってのエンパワメントに繋げる**こと

- 今回子どもたちから出た意見をセーブ・ザ・チルドレンが国会議員、政府に届け、その意見がこども家庭庁や今後の子ども施策に反映されるか、反映されなかったとしても何らかのフィードバックを得ることにより、**子どもたちが「自分の声で社会が少し変わった！」と思うような体験に繋げる**こと

- 最終的には、社会の様々な場面や機会で今後大人が真の意味で子どもの声を「聴き」、子ども目線の声をそこから進んで政策に活かしていくためには、**大人の側にも聴くスキルや姿勢が求められる**のであり、今回のイベントの開催を**「大人の聴く姿勢」のガイドラインの作成に繋げる**こと

キャラバンで、子どもたちから大人に伝えたこと

1. 普段の生活の中で感じている、**社会や学校、大人に対しての「もっとこうあって欲しいなあ」や、「これは嫌だなあ」というモヤモヤ**について
2. どうすればこれまでよりもいい方法で、**大人や社会は子どもたちの意見を聴いて、それを社会の中で活かしていけると思うか**について



- 国レベルの子ども政策（こども家庭庁）の仕組みに繋がる政策提言
- 自治体における子ども参加の仕組みづくりへの政策提言

目次

1.子ども・ユースキャラバンとは？
2.プログラムの様子
3.参加した子どもたちの声
4.アンケート結果
5.参加した大人の声
6.ファシリテーターの声
7.イベント・アンケートを通じて明らかになったこと



Save the Children

「子どもの権利」アクティビティ：
私は何の権利でしょう？

ジェスチャーや言葉を
使って説明をして、
子どもの権利につい
て勉強してみよう！





Save the Children

「子どもの権利」アクティビティ：
モヤモヤを言葉にしてみよう



普段の生活で
感じる
モヤモヤを
書き出し…





お互いに
話したり聞いたり
質問したり
してみたよ

Save the Children

こども家庭庁って何だろう？



こども家庭庁設立
準備室で働く大人に
直接質問をしたよ





Save the Children

議員＆政策決定者とのグループワーク





Save the Children

議員＆政策決定者とのグループワーク





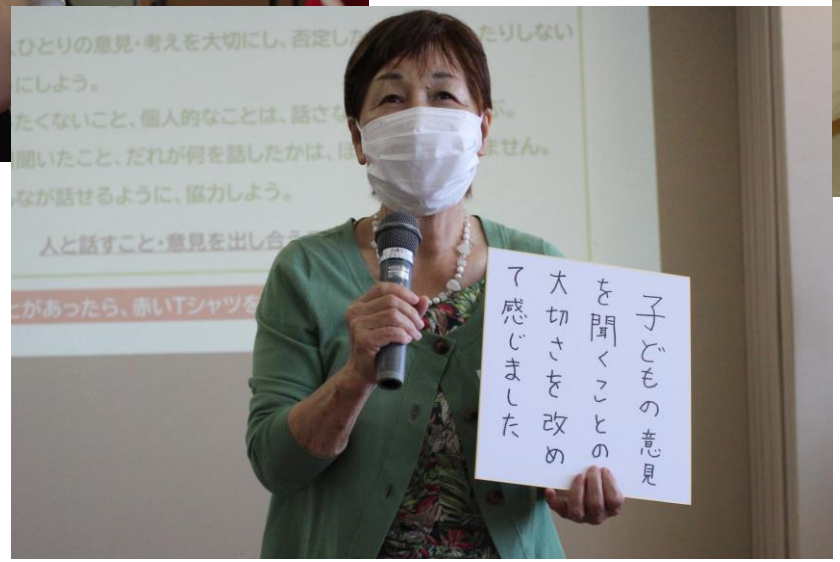
Save the Children

まとめ＆感想



イベントに参加して
考えたこと・思ったこ
とを子ども・大人が
それぞれ発表したよ





Save the Children

目次

1.子ども・ユースキャラバンとは？
2.プログラムの様子
3.参加した子どもたちの声
4.アンケート結果
5.参加した大人の声
6.ファシリテーターの声
7.イベント・アンケートを通じて明らかになったこと

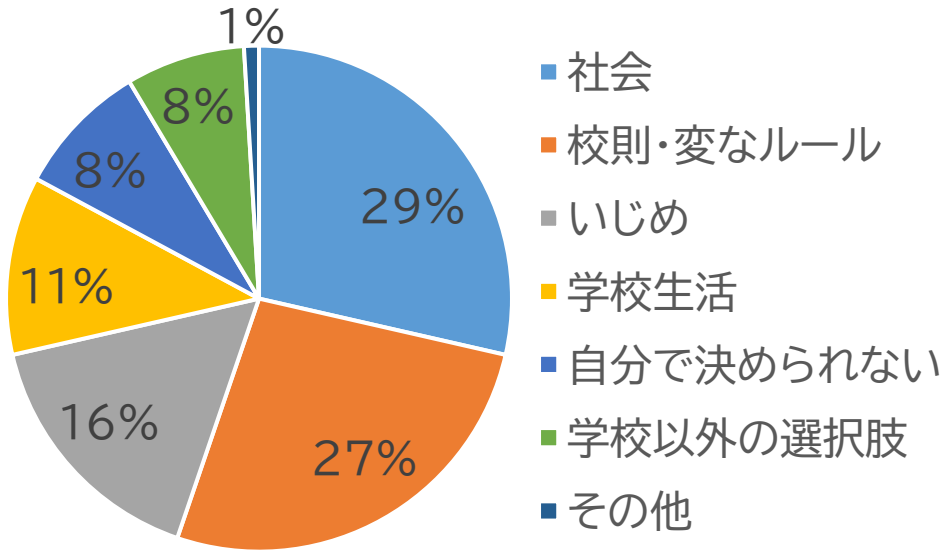


Save the Children

ふだんの生活で気になっていること・大人の人たちに言いたいこと

たとえば･･･
「当たり前」になっているけれど、「なんかおかしいな」と感じていること・こんな学校・社会だったらいいな～と思うこと

- ✓ **多くの子どもたちが長い時間を過ごす、学校に関してのモヤモヤが全体の約6割（62%）を占めた**（校則・ルール、いじめ・悩み、学校生活、学校以外の選択肢について）。
- ✓ 特に**校則について（27%）が多く**、「校則を入学前に知りたい、自分たちで改良できるようになりたい」との声も聴かれた。
- ✓ また、**いじめについて（16%）**も、「悩みを言っても改善されない」「困っている人がいてもどうしたらいいのかわからない」といった意見があった。
- ✓ カテゴリ別で見ると、**社会について（29%）**が一番多く、「多様性・やりたいことを認めて欲しい」「経済的な支援をしてほしい」などの声が寄せられた。
- ✓ それ以外にも、「公園などの公共施設の地域間格差や、学校を自分で選べないこと」など、**自分で決められないことについて（8%）**も寄せられた。



※「モヤモヤを言葉にしてみよう」のワークシートの回答から集計

Save the Children

ふだんの生活で気になっていること・大人の人たちに言いたいこと

校則やルールについて

- 外見についての校則（髪型、髪色、髪留めや靴下の色など）
- 給食を全部食べないと遊びに行けないルールはおかしい
- 入学前に校則を知りたい
- 校則を改良できるシステムが欲しい
- 校則という概念はあるべきか
- 生徒間で校則について話し合って先生に提案したのに、何も変わらず、その後どう扱われたのかもわからない
- 担任を選べるようにしてほしい
- 先輩に敬語を使ったり言うことをきかなければいけない
- トイレが男女ではっきり分かれているので多目的トイレが増えるといい
- 学童は親が仕事だから利用しているのに、親が学童の仕事を手伝っているのがおかしいと思う

学校でよくわからないルールがある。体育のとき以外に体育館には行っちゃいけないのはなぜ？（小学生）

弟、妹にものを譲ったり、食べ物をあげたりするのって、いやでもしなければいけないのかな。（小学生）

※「モヤモヤを言葉にしてみよう」で挙げられた内容の例を記載

Save the Children

ふだんの生活で気になっていること・大人の人たちに言いたいこと

いじめ・悩み・意見を言うことについて

- 心や体を傷つける暴力を受けたときなぜ仕返しをしてはいけないのか
- 教室で空気を読んで過ごしている
- 悩みを言っても解決したことがない
- 最終的には大人の意見がすべて
- いじめのアンケートに回答しても、秘密が守られない
- 相談されたときになんといえばいいのかわからない
- 助けたくても不安、怖い、どうやってつながったらいい？
- 個人面談で先生にひたすら困っていることがないか聞かれる

学校以外の選択肢について

- 行きたくないのに学校に行く必要はあるのか
- 不登校や通信制に対する偏見
- 能力があれば学校以外の学びでもいいんじゃない？
- 能力で学校や学年が選べるといいな
- フリースクールと学校での考え方の違い

いじめを、先生に相談して、「ほっとけば良い」などと、一言だけかけて終わりにしてほしくない。いじめられた子に悲しい気持ちが残ってしまうから。（小学生）

学校に行くのが普通になっているけど、別の選択肢も選べるようになったらいいな。（高校生）

※「モヤモヤを言葉にしてみよう」で挙げられた内容の例を記載

Save the Children

ふだんの生活で気になっていること・大人の人たちに言いたいこと

学校生活（設備・部活・先生）について

- 学校の教育でもっとタブレットを使ってほしい
- PTAにお金を毎月払っているのに、設備が全然よくならない
- タブレットをもうちょっと性能の良いものにして！
- 大きい音が苦手な人もいるから、防音室を作ってほしい
- 部活動をやっていたけど、一年もしないうちになくなってしまった
- 部活がないからクラブチームに入れる子はそのスポーツをできて、入れない子はできないという不平等になっている
- 先生は頭がいい子をえこひいきする
- 先生がいらいらしていることを話された
- 先生の言葉遣いが気になる
- 返事をしないと、だめなクラスと先生に決めつけられた
- スクールカウンセラーの男女比について

※「モヤモヤを言葉にしてみよう」で挙げられた内容の例を記載

小学校の校舎の色が変。
子どもに聞いた方がいい。（小学生）

先生たちが教えてくれる部活がなくなり外部の人たちがくることになっているけど、練習の頻度が下がったり、鬼ごっことかの「遊び」になっちゃったりしていて、「部活をがんばりたい」と思っている子たちが頑張れないのがいやだな。
（中学生）

Save the Children

ふだんの生活で気になっていること・大人の人たちに言いたいこと

社会について

- やりたいことがやりやすい社会だったらいいな
- 学力・学歴のしめる割合が大きすぎるのでは
- お年寄りにばかりお金を使い続けるのはやめてほしい
- 子ども・大人と区切らず、対等に扱ってほしい
- なぜ投票率が低いのかな
- 将来の夢を笑われるのはなんで？
- 中学生らしいとかの「～らしい」とは
- 何かやりたいことがないといけないの？
- 経済的理由で夢を諦めてしまう子をもっと支援してほしい
- 高校の無償化・学習支援に所得制限があること
- 子どもの権利を知らない人もたくさんいるので、子どもの権利をまずは身近なおとな（親、先生など）が理解して子どもにしっかりと伝える

※「モヤモヤを言葉にしてみよう」で挙げられた内容の例を記載

違う意見を理解しようとする社会だったらいいと思うし、自分もそうでありたいと思う。（高校生）

りふじんなことがない社会がいいなあ（小学生）

Save the Children

ふだんの生活で気になっていること・大人の人たちに言いたいこと

自分で決められないことについて

- お金や時間がないから行きたいところに行ったり、やりたいことができない
- あまり遠くにでかけることができない
- 保育園・幼稚園・高校・大学は選べるのに、小中学校は住んでいる地域の学校しか選べない
- テレビでよく見る海外の子どもたちを見ると、食べ物や水が手に入れられないし、日本でも虐待や車のなかにおいていったりして、子どもが少しずつ亡くなっている
- 住んでいる地域に公園や児童館など、自由に遊べる場所がないし、遠くて他の地域に行けない

親にすべて、習い事ややることをすべて決められるのって当たり前？（中学生）

どうして義務教育は公立の学校しかないんだろう。（中学生）

※「モヤモヤを言葉にしてみよう」で挙げられた内容の例を記載

Save the Children

意見を伝えて・きかれてみて、どうでしたか？

- うなずきながら、**自分に置き換えて考えながら聞いてくれて**、うれしかった
- **否定せず、優しく受け入れてくれた**から話しやすかった
- 話し始めたときに静かにしてくれて話しやすかった
- 他にも**同じような問題を抱えている子がいたから共感できた**
- 自分の意見を**しっかり考えてくれてうれしかった**
- もやもやがすっきりしてよかった
- いろんな人の意見に1つ1つの考えがあっておもしろかった
- みんなの意見を聴き、**いろいろな視点の考え方があることがわかった**
- **若者の考えがもっと通るようになるべき**という認識を共有できた

たとえば・・・
自分の考えがもっとよくわかった、深まったと思うことや、「こういう『ききかた』をしてくれたから、話しやすかった」と感じた質問や声かけなど

学校や場所、人によって校則やルールが違い、これって当たり前じゃないんだと思った。（中学生）

自分の行っている学校や、これでいいのかなって思ってることは、みんなとちがって、新しかったし、これから考えるきっかけになりそう。（中学生）

Save the Children

どのような人・場所であれば、「相談しやすい／話してもよさそう」と思いますか？

子どもたちが「相談しやすい」と思う人・場所は、

信用できる人・否定せず理解してくれる人・普段から話す人

具体例：

- **友達**
- **スクールカウンセラー・相談室の人**
- **親**

主な理由：自分と同じ立場で話せるから共有しやすい・しっかり口止めできる・信用できる・理解してもらいやすい・普段からよくしゃべるから

主な理由：否定せず受け止めてくれるから・親以外で一番身近だから・信用できるから・専門だから

主な理由：信頼できるから・話しやすいから・すぐ話せるから

- それ以外：
  - 自分に寄り添って話を聴いてくれる優しい人
  - 静かなやわらかい雰囲気の場所
  - 人に聞かれない場所　など

Save the Children

どのような人・場所であれば、「相談しづらい／話しにくい」と思いますか？

子どもたちが「相談しづらい」と思う人・場所は、

信用できない人・秘密を守らない人・きちんと話を聞いてくれない人・知らない人

具体例：

- **先生**
  主な理由：自分の経験に固執する人が多い・信頼できないから・他の人に話されてしまいそうで怖いから・話してもとりあってくれない気がした・普段いるところだから・こわいから
- **親**
  主な理由：身近すぎて逆に話しづらいから
- **電話・LINE・SNSでの相談**
  主な理由：だれかわからないから・よくわからないから

- それ以外：
  - いじめてきた人
  - 自分の話をするのが好きな人
  - 相談されると考えこんでしまう人
  - かたい雰囲気の場所　など

Save the Children

目次

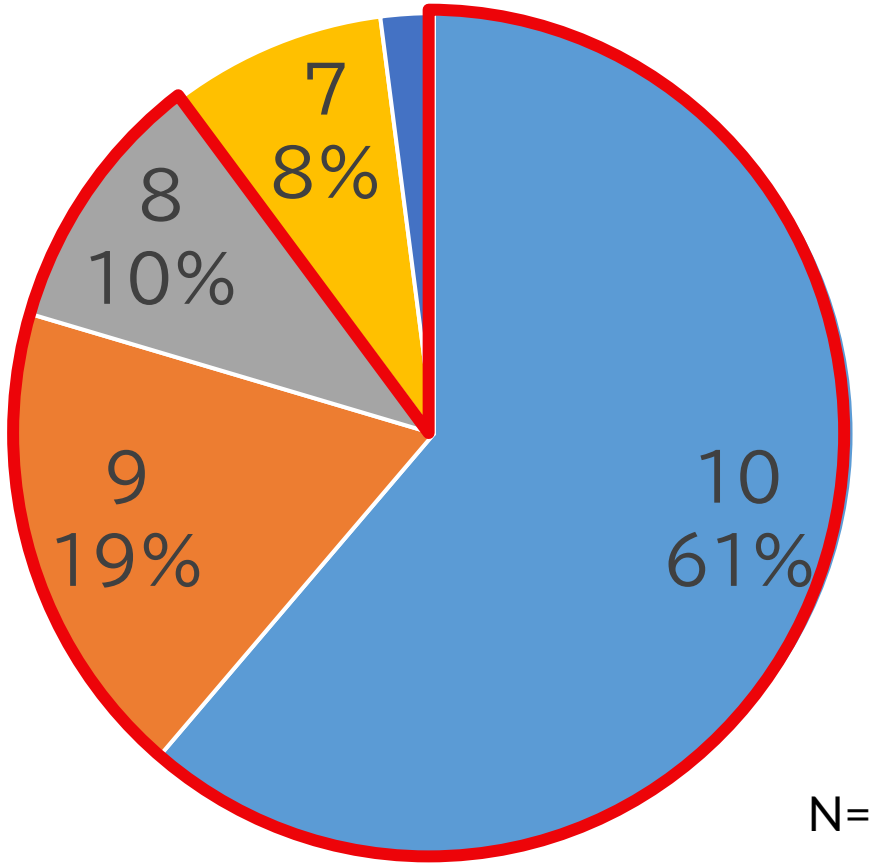
1.子ども・ユースキャラバンとは？
2.プログラムの様子
3.参加した子どもたちの声
4.子どもへのアンケート結果
5.参加した大人の声
6.ファシリテーターの声
7.イベント・アンケートを通じて明らかになったこと



Save the Children

イベントの満足度
（1：満足できなかった～10：満足した）

イベント参加後のアンケートで、9割の子ども参加者がおおむね満足したと回答した。



N=50

自分が思っていることをみんなも同じように感じていることもあれば、他の人はなんとも思っていなくても自分にとってはおかしいと思うこともあるということがわかりました。
これは、**お互いに思いを発してみたから得たものなので、大人と子どものすれ違いも理解し合おうという姿勢がとれればなくなっていくのではないかと思いました。**

Save the Children

子どもの権利について分かったこと

子どもの権利について、**沢山の権利が世界中のどんな子どもにも認められていることを初めて知ったという参加者が多かった**。権利の主体として、知ることが大事という声もあった。

子どもの権利条約が、**42条あると知って、驚きました**。改めて、権利に守られていると感じました。

自分が知らないだけで、たくさんの権利があり、守られたり、守られなかったりもされているんだなと思いました。

どんな子でも権利がある。

すっごい難しいことだと感じていたが、**あたりまえを本当のあたりまえにしてくれるもの**だと感じた。

権利の主役となるはずの子どもが「子どもの権利」についてよく知らなかったりしていて、**せっかくあるのだからもっと知るべき**だと思いました。

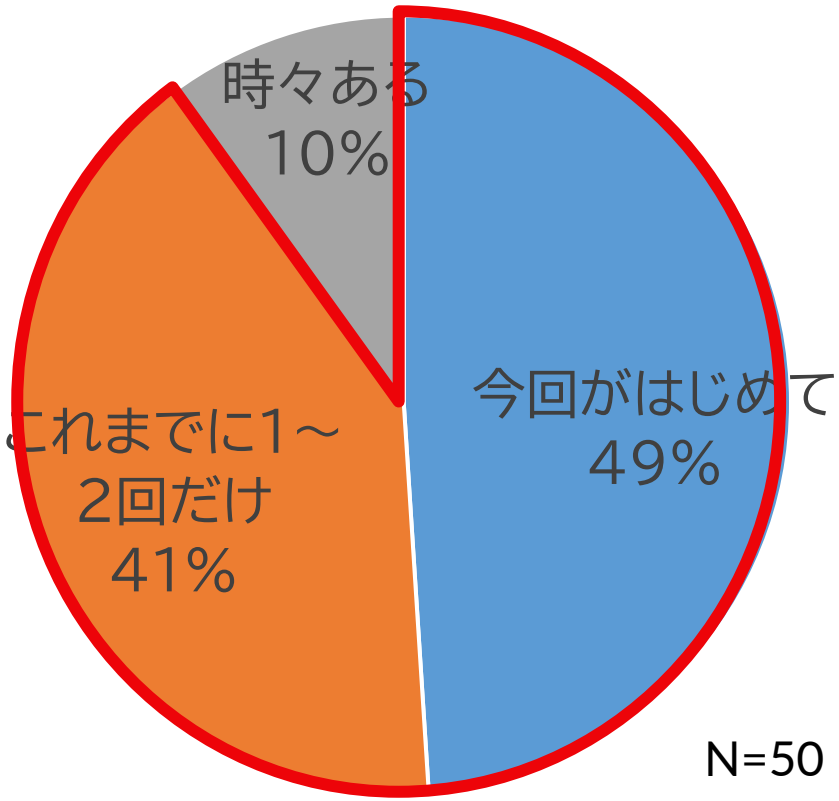
※自由回答から一部抜粋

たくさんの権利の保障があったので思っていたことを実現できると思いました。

議員や政策を決める人たちと話す機会はこれまでにもありましたか？

議員や政策決定者と話す機会は**約半数の子どもが今回がはじめて**、およそ**40%の子どもがこれまでに1～2回だけ**だった。日常的に機会があると答えた子どもは一人もいなかった。

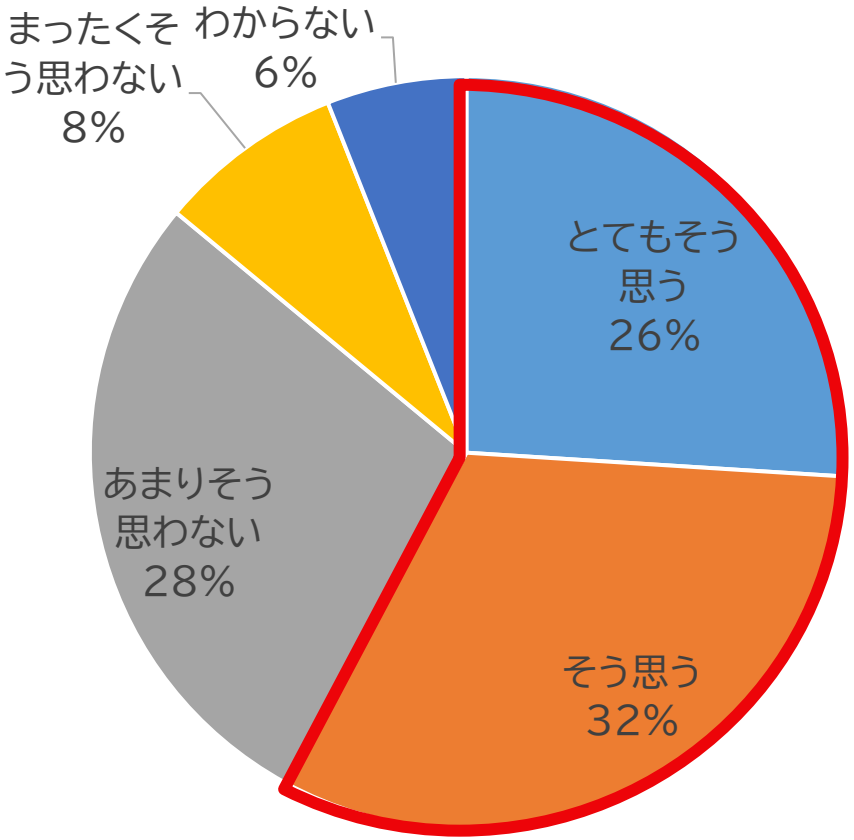
子どもの9割が
議員や政策決定者と話す機会はほぼない
と回答



N=50

Save the Children

政治家（議員）に対して、社会や政治についてあなたは自分の意見を自由に言いやすいと思いますか？



N=50

「とてもそう思う・そう思う」合わせて58%
→イベントに参加して、**政治家に対して自分の意見を言いやすいと思った子どもが半数以上**。

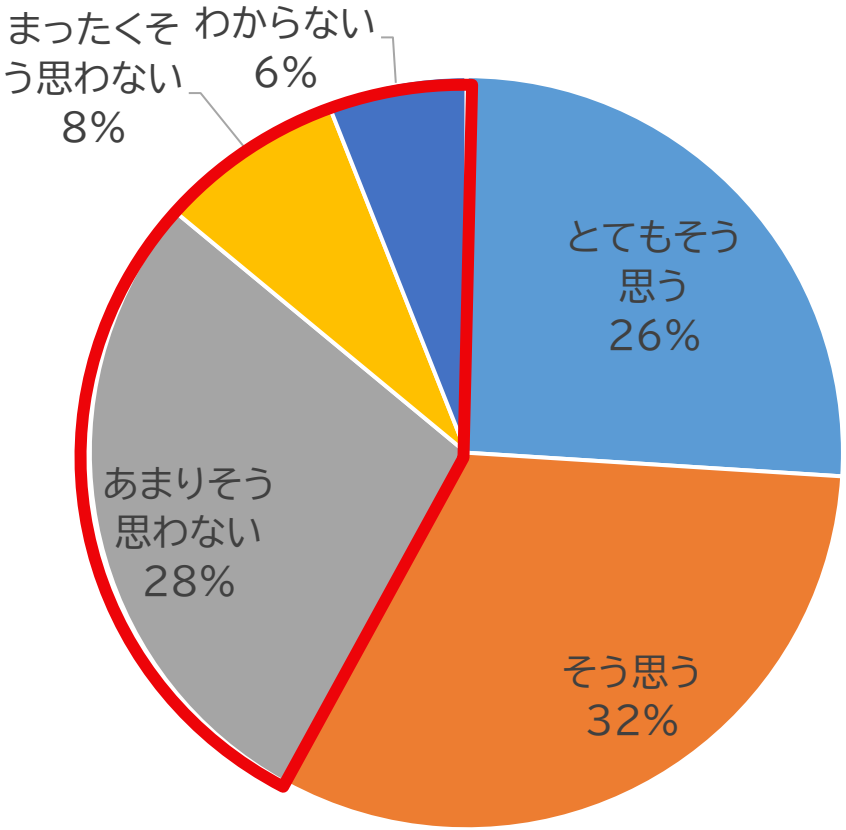
「とてもそう思う・そう思う」と回答した子どもたちの主な理由は以下の通り

- みんながしっかり意見を聴いてうれしかったし、うなずいてもくれたのでとてもよかった。
- 自分の意見をしっかりと真摯に聞いてくれた
- はじめはきんちょうすると思ったけれど、議員さんたちがとてもこしが低くて話しやすかったです。
- 私たちの意見を聞こうという姿勢を感じることができたからです。

※自由回答から一部抜粋

Save the Children

政治家（議員）に対して、社会や政治についてあなたは自分の意見を自由に言いやすいと思いますか？



N=50

イベントに参加して、政治家に対して**あまり・まったく意見を言いやすくない・わからないと回答した子どもたちは約4割**。

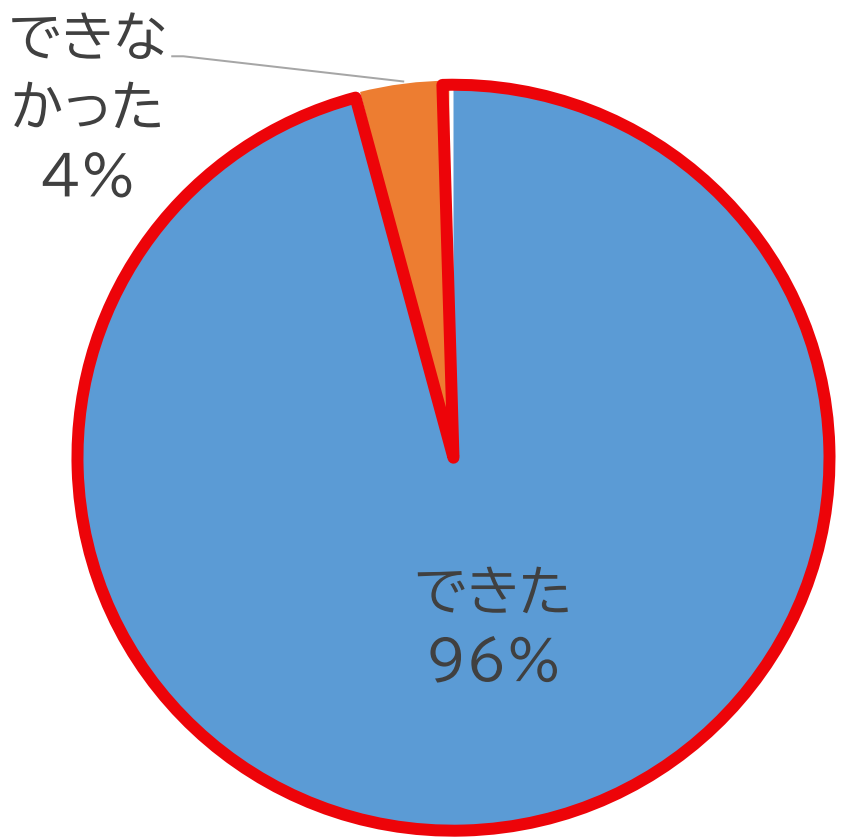
「あまりそう思わない・そう思わない・わからない」と回答した子どもたちの主な理由は以下の通り

- かたいイメージがあるから。
- そもそも政治家に会う機会がない。
- どこからどのようにやればいいかがわからないから。
- あまり自由にいってもこまるかもしれないし、いわなくてもこまってしまうからわからない。
- 政治では勉強はしたけど、なにかをしてどう影響するのかがわからないからです。

※自由回答から一部抜粋

Save the Children

今日は普段考えていることをうまく言葉にして、伝えることができましたか？



N=50

普段考えていることを**うまく言葉にして伝えることができたという子どもが96%**

「できた」と答えたこどもの主な理由は以下の通り

- 一緒の机だった方々がゆっくり喋らせてくれたので、焦らず考えて喋ることができました。
- 普段考えていることを話すのは少し難しかったけど、グループの人がやさしく質問をしてくれたりしたから、話せた。
- わたしは恥ずかしがり屋だけれど、聞いてくれることで言いやすかった。

「できなかった」と答えた子どもの主な理由は以下の通り

- 深く考えた事がなかったから

※自由回答から一部抜粋

Save the Children

こども家庭庁に対して期待すること

子どもの意見をしっかり聴いてほしい、意見表明が出来る仕組みや機会を増やしてほしいという意見が多かった。また、モヤモヤの議論で挙がった、**いじめや虐待、学校での悩み、学校以外の選択肢、経済支援、ヤングケアラーなどの問題への対策**を期待する声が聞かれた。

子どもの意見表明について

- 子ども・若者の意見をしっかり聴いて、解決・反映してほしい
- こどもが抱えている悩みを正直に相談しやすい環境づくりをして、一瞬のSOSに対応してほしい
- こども家庭庁に対して子どもが直接意見が言える場所を作って（WEB掲示板など）
- なるべく多くの人の声を聞いて、解決してほしい
- 子供にとって本当に必要なことを行ってほしい
- 中高生の討論会の機会がほしい

相談できないということをなくすことを期待しています！

最近目にする新生児期、乳幼児の育児放棄、虐待に関して興味を持っており、まだ小さくて自分で訴えることができない子ども達の生きる権利をどのような制度で守っていくのか期待しています。

※自由回答から一部抜粋

Save the Children

こども家庭庁に対して期待すること

いじめ・虐待について

- いじめや、子どもがいやがること、傷ついたりすることが、今より少なくなったり、発見されやすくなったらいいな
- ぎゃくたいなどが無くなる世の中をつくってほしい

学校関係のことについて

- 子どもが学校という場で、主体的に活動できるような仕組みをつくっていってほしい
- 自分にあった教育や生活を選べるようにして欲しい
- 義務教育には選択肢が少ないと感じるので選択肢を増やす政策について関係する省庁に働きかけてほしいと思う

経済的なこと・家庭のことについて

- 学費面についての支援
- こどもだけじゃなく親のサポートもしてほしい
- ヤングケアラーなどの社会問題の解決に率先して取り組んでほしい

いろんな学校がみとめられればいいな。

スクールカウンセラーなどが全部の学校にくるようになること。

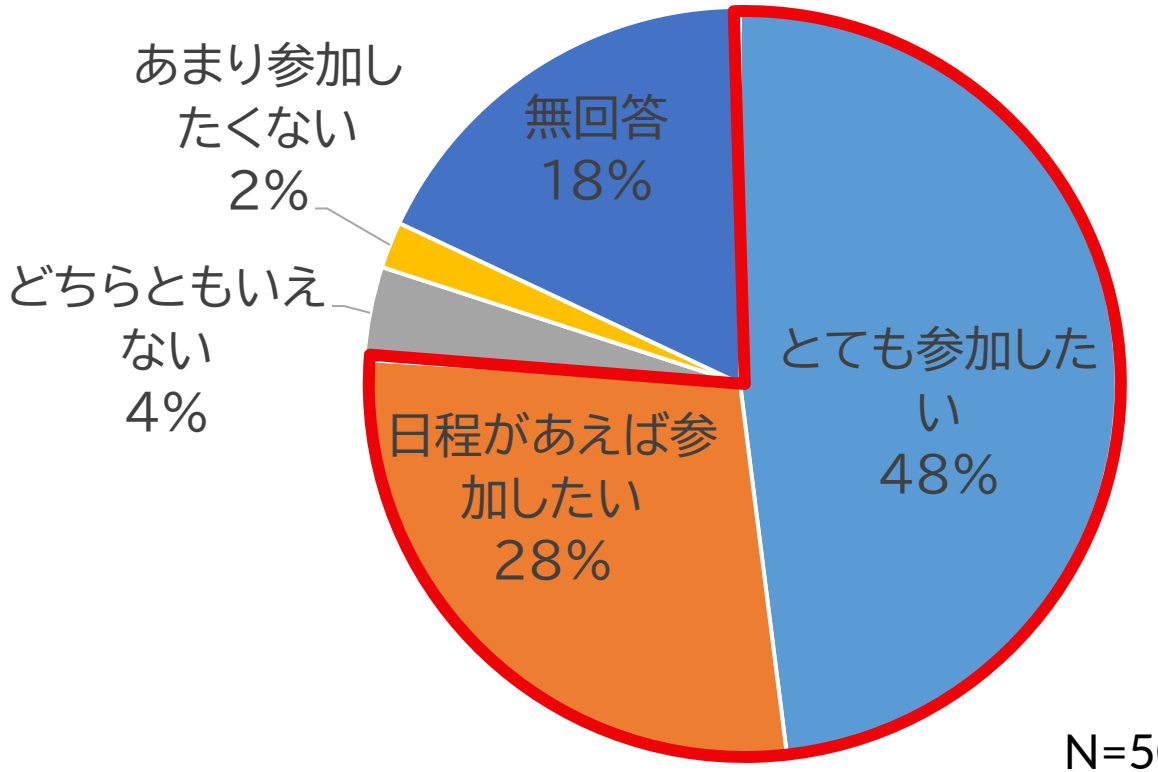
学ぶ機会を選びやすいように子育て世代への金銭支援をしてほしい。

※自由回答から一部抜粋

Save the Children

またこのような機会があれば参加したいですか？

約8割の子どもがまた機会があれば「とても参加したい・日程があえば参加したい」と回答。



N=50

Save the Children

目次

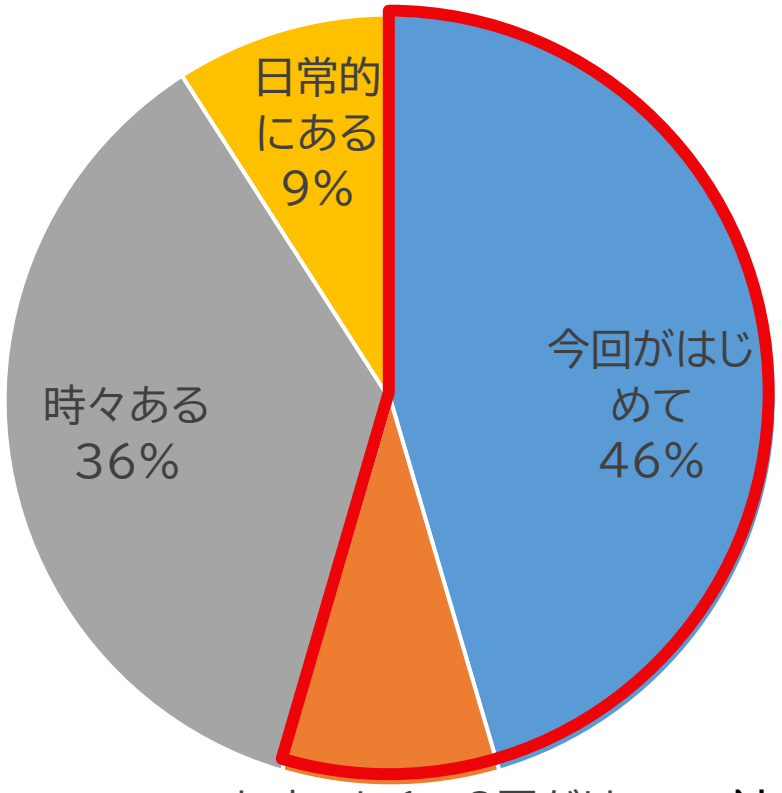
1.子ども・ユースキャラバンとは？
2.プログラムの様子
3.参加した子どもたちの声
4.アンケート結果
5.参加した大人の声
6.ファシリテーターの声
7.イベント・アンケートを通じて明らかになったこと



Save the Children

日頃の業務の中で、子どもたちと話す機会はこれまでにもありましたか？

半数以上（55%）の政策決定者が業務内で子どもと話すのは「今回がはじめて・これまでに1～2回だけ」と回答。



N=12

Save the Children

子どもから出てきた意見や質問のうち、驚きや新しい学びがあったことがあればおしえてください。

自分の意見を話すだけでなく、**他の子の意見を聞いて話し合いを進める力のすごさにおどろいてしまいました**。

すごいいろんな問題意識を持っている。その多くは素朴で大事な意見でした。

多くの悩みを抱えながら子どもたちは生きているということを改めて実感した。

第三の居場所、相談体制　**大人と子どもでは認識にギャップがある**

こどもならではの意見（**なぜ職員にこどもがいないのか、中流階級の家庭の子の方が教育・進学が厳しい、学校生活について**など）

※自由回答から一部抜粋

小学生の子たちの積極性に驚きました。**検定や株などの投資に興味があって学びたいという意欲がある**ことを知りました。

グループワークを通じて、子どもの意見を聴くために、何か気を付けたり工夫したりしたことはありますか？

目線・姿勢	聴く	話し方
・同じ目線と言葉づかいと態度 ・話しやすい姿勢（フレンドリーさと丁寧さのバランス）の作り方、難しさを感じた ・うなずきながら目線を合わせるように気を付けました	・最後まで聴く（さえぎらない） ・まずさいしょに子どもたちの意見を聴くようにしました ・子どもの意見を尊重するという姿勢をもつように心がけました ・対等な立場で聞く姿勢であったつもりですが、印象がどう与えているかはむずかしいです。	・深める質問をする ・人の意見に対し「～だよね」とまとめてしまうのでそうならないように気をつけた ・自分の昔話をしないように

※自由回答から一部抜粋

Save the Children

子どもの意見がより聴かれ、それが活かされる社会にするために、今後どのような施策が必要ですか？

子どもの意見を聴くための仕組みづくり

- こどもの意見を反映させる仕組みを作る。月並みですが、それがとても大事だと思います。
- まず大切なことは教育の場で子どもが意見を出す場を保障すること。そしてそれをきちんと受け止める学校側、教師の姿勢が大切。そしてなにより教師のゆとりある環境をつくること。
- 各学校のアンケート→集約して国まであげられる仕組みづくり
- 定期的に子ども達と接し、交流し関係性をまず作ること。そこから心の意見が出ると感じています。

行政

- 子どもが参画できる会議や審議会の拡充、予算の拡充、組織の強化（市役所）

姿勢

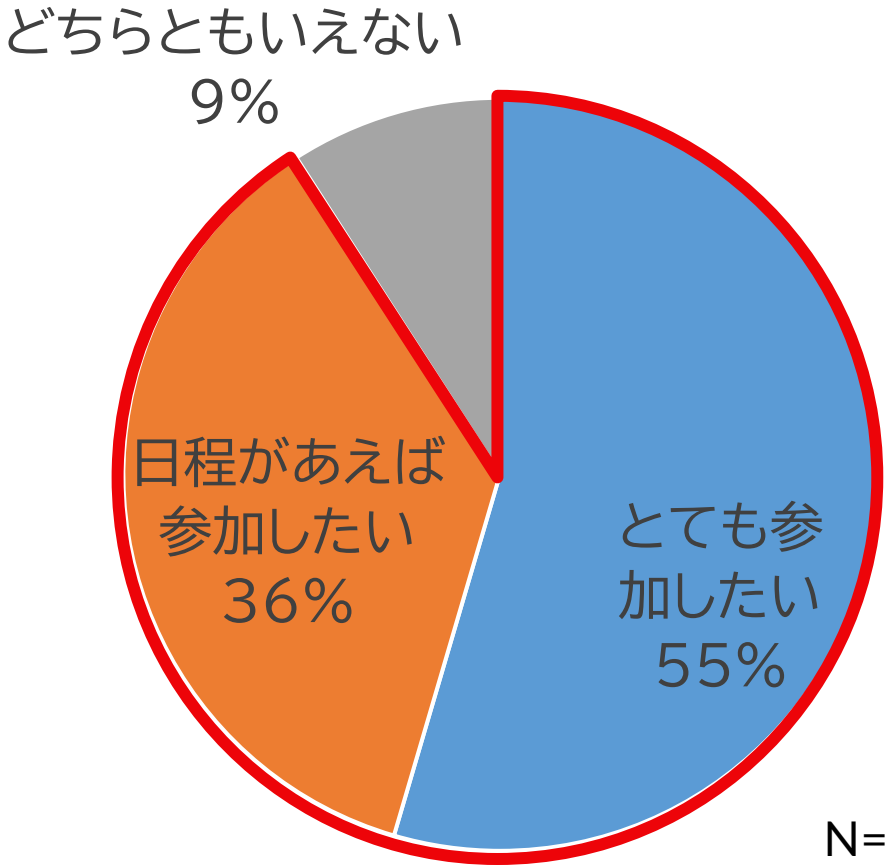
- 言う余裕も聴く余裕も必要だと感じた
- 施策よりもまずは姿勢

※自由回答から一部抜粋

Save the Children

またこのような機会があれば参加したいですか？

9割の以上の大人がまた機会があれば「とても参加したい・日程があえば参加したい」と回答。



N=12

Save the Children

目次

1.子ども・ユースキャラバンとは？
2.プログラムの様子
3.参加した子どもたちの声
4.アンケート結果
5.参加した大人の声
6.ファシリテーターの声
7.イベント・アンケートを通じて明らかになったこと



Save the Children

子どもの権利を知るアクティビティを通じて、子どもの様子など何か気付いたことがあればおしえてください。

初対面の子どもたち同士が楽しく安心して話すためのアイスブレイク・雰囲気づくりについての課題意識や工夫についての意見が挙げられた。

「私は何の権利でしょう」アクティビティはみんなとても楽しんでいた様子でした。緊張感をほぐすのにも有効だったと思います。

なかなか名札シートに名前を書かない、記入シートにも書き込みを始めない。でも、言いたいことがないのではない。**その子のペースがあるので、せかさず待つことの大切さ**を感じました。

仲の良い子どもが2人で話すことが多く、場が分かれかけたので、**全員でシェアできるよう心がけました**。

とくに**前半は自分から発言する子どもが少なく、応答的なやりとりになりにくい雰囲気があった**。そのため、質問の時間があることで、ファシリとしては子ども同士の意見交換を促すことができた。

※自由回答から一部抜粋

Save the Children

子どもと政策決定者とのグループワークについて質問です。
①20分×2回という時間設定はどのように感じましたか？
②子どもの発言で大人参加者の興味を引いた話や、議論が盛り上がった話題があればおしえてください。

時間設定については、ほとんどのファシリテーターが「時間が足りなかった」と回答。

【興味を引いた話・盛り上がった話＆ファシリテーターの考察】※自由回答から一部抜粋

オルタナティブスクール（サドベリースクール）のこどもたちの通学定期がみとめられていないという話題のとき、行政職員はオルタナティブスクールを知らなかった様子。知らないことが手の届かない一因になっていると感じた。

心や体を傷つける暴力を受けた際になぜ仕返しをしてはいけないのか。大人は「仕返しはダメ」という。という哲学的な問いがあり、答えようと言葉探しに懸命になっている子や戸惑う子、いろいろでした。

スクールカウンセラーがいても相談できないなど、学校生活でのリアルな実情を興味深く聞いていただいたようだった。

校則についての意見が多く出たことから、子どもたちにとっては学校が大きな存在なのだと改めて思いました。一方で、学校外の世界が身近ではないというか、社会問題がジブンゴトになっていないとも感じます。それが好ましくないということではなく、多くの子どもにとっては当たり前のことです。シャンパンタワーの法則のように、まずは**自身の課題を解決した先に、周りを見渡す余裕が生まれる**のだと思います。

子どもの話を聴く大人側（議員・行政職員）の姿勢としてよかった点、改善点があればおしえてください。

【良かった点】

議員の方々は楽しげな雰囲気を作るのがとても上手で、多くの子どもたちの心を開いていました。賑やかな雰囲気が苦手な子もいましたが、**無理に発言を促すようなことが無かった**ので、子どもたちは安心していました。

議員の方々もとても寄り添って聞いてくれていました。それぞれの得意分野での視点で語っていたので伝わっていると思います。

頷きながら聴いていたのがよかったです。特に**メモをたくさんしていた**議員さんは、「知ろう」「国に伝えよう」という熱意と真剣さが伝わったと思います。

子どもたちの話を**目をみて聞き、それに質問したり、ニックネームを呼んで話しかけたり**していた。

【改善点】

イベント後、生徒に聞き取りをしたところ、「聞くだけでなく政治家として専門的な政策や知識を教えてほしかった」とのことだった。高校生の場合、**聞いてもらうだけでなく大人として扱ってもらい、別の視点を与えてもらうこと**で議論を良い方向に進めていくような流れの方が良いのかもしれないと感じた。

※自由回答から一部抜粋

Save the Children

ファシリテーターとして心掛けたことがあればおしえてください。

子どもたちが気持ちや意見を言いやすいように、発言者のバランス、ファシリテーターの存在感、子どもとの関係構築などを工夫したという回答が多かった。

ひとりひとりがそれぞれの参加の理由があり、思いがある。まずはここにいてくれることをリスペクトしてそのままを受け入れること。無理に意見を求めないこと。自然にみんなから意見が出てきました。

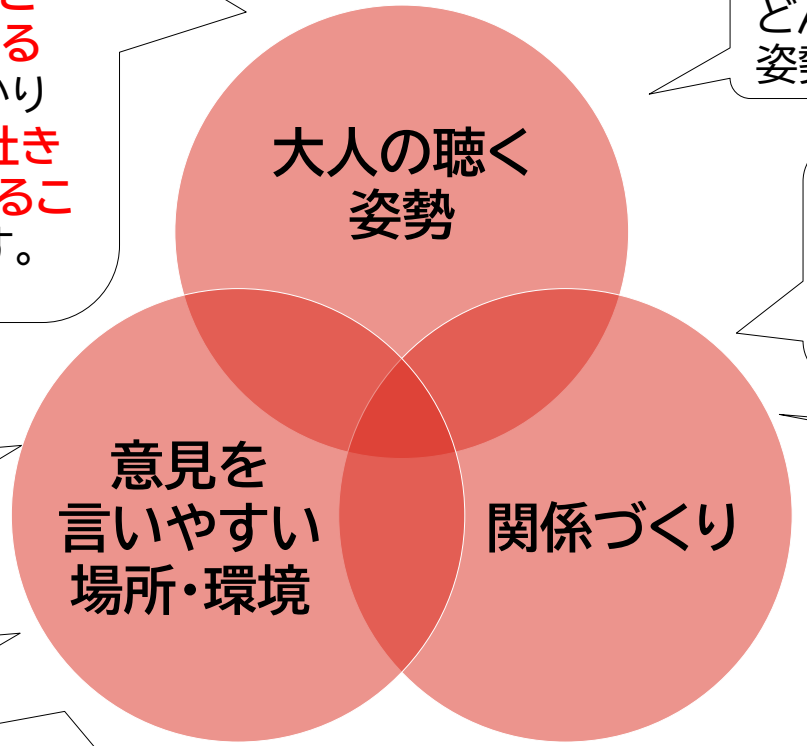
グループのメンバー**皆が話す機会があるように、また、意見が出せない場合は考える元になるようなヒントを出したり**、など。

大人が子どもの話を聞くという意識を持って参加されていたため、**大人側の意見がなかなか出てこなかったため、意見や具体的な体験を引き出すように心がけた**。

子どもたちが受付後に席に着いてからや休憩時間など信頼関係を築くためにたくさんの話をしました。**子どもたちの話にはきちんとストーリーがあります。最初のアクティビティから議員さんとのセッションまで繋がっています**。受付してから終わるまでファシリはずっと同じテーブルの子達の話を聞いてあげられると大人の理解度は違うかもしれません。

※自由回答から一部抜粋

普段子どもと接する中で、どのような条件があれば子どもが意見を言いやすいと考えますか？



大人が話を聴く姿勢をみせる。否定しない。受け入れる。

どんな意見も聞こう！と聞きたい！と思う姿勢を大人がもつこと。

まずは**意見を言いやすい関係づくり**だと思います。これしかないかな。否定しない、評価しない、おもしろがる!!自分も自己開示する!!

「何かあったらいつでも聴くからね」と伝えておくこと、話してくれたときに真剣に対応することで“話していい人だ”と認識してもらう。

日ごろから雑談をしておく。堅苦しかったりマジメすぎたりしない大人の方が話しやすいかもしれない。

その子たちが**普段過ごしている安心できる場所で、子どもたちが良いと思うタイミング**

「困ってることある？」と
声を掛けてきっかけをつくる

そのときの**子どもにマッチした場所、環境、タイミング選び**

傾聴のみです。**大人は子どもたちの話の先回りをして違う結論に勝手に至ることが多くある**と思っています。**(聞いているつもりでちゃんと聞いていない)**しっかり吐き出させるくらい聞いてあげると、**吐き出した後に本音のカケラを言ってくれることがあります**。それを大事にしています。

目次

1.子ども・ユースキャラバンとは？
2.プログラムの様子
3.参加した子どもたちの声
4.アンケート結果
5.参加した大人の声
6.ファシリテーターの声
7.イベント・アンケートを通じて明らかになったこと



Save the Children

【まとめ】イベント・アンケートを通じて明らかになったこと

【子どもたちの悩み】

- ✓ 子どもたちが長い時間を過ごす**学校に関しての悩みが全体の約6割（62%）を占めた**（校則・ルール、いじめ・悩み、学校生活、学校以外の選択肢について）。
- ✓ カテゴリ別だと**社会について（29%）**の悩みが一番多く、多様性・やりたいことが認められて欲しい、経済的な支援不足などの声が寄せられた。
- ✓ 全体として、**日常生活の様々な場面で、理不尽なルールが決められていること、ルールを自分たちで決められないこと**に不満を持っている声が多かった。

【相談しやすい人・しづらい人】

- ✓ 子どもたちが「相談しやすい」と思う人・場所は、**信用できる人・秘密を守る人・否定せず理解してくれる人・普段からよく話す人。**
- ✓ 子どもたちが「相談しづらい」と思う人・場所は、**信用できない・秘密を守らない・きちんと話を聞いてくれない人・知らない人。**

【子どもの意見が聴かれる機会は少ない】

- ✓ 子どもの**約9割が、議員や政策決定者と話す機会はほぼない**（今回がはじめて・これまでに1～2回）と回答。日常的に機会があると答えた子どもは一人もいなかった。
- ✓ 政策決定者も、**半数以上（55%）が業務内で子どもと話すのは「今回がはじめて・これまでに1～2回だけ」**と回答。
- ✓ **政治家に対して、あまり・まったく意見を言いやすくない・わからないと回答した子どもたちは約4割**で、理由として、そもそも政治家と会う機会がない・どのように話せばいいかわからないことを挙げた。

【子ども家庭庁に期待すること】

- ✓ 子どもたちがこども家庭庁に期待するのは、**子どもの意見をしっかり聴くこと、意見表明が出来る仕組みや機会を増やすこと**であった。また、モヤモヤの議論で挙がった、**いじめや虐待、学校での悩み、学校以外の選択肢、経済支援、ヤングケアラーなどの問題への対策**を期待する声が聞かれた。

Save the Children

【まとめ】子どもが声をあげやすい環境を作るための大人の聴く姿勢

子どもたちが「相談しやすい」と思う人・場所は、**信用できる人・秘密を守る人・否定せず理解してくれる人・普段からよく話す人**	子どもたちが「相談しづらい」と思う人・場所は、**信用できない・秘密を守らない・きちんと話を聞いてくれない人・知らない人**
相談しやすい人の条件 ✓ **信用できる** ✓ **しっかり口止めできる** ✓ うなずきながら、**自分に置き換えて考えながら聞く** ✓ **否定せず、優しく受け止めてくれる** ✓ 話し始めたときに静かに聴く ✓ **同じような問題を抱えていると共感できる** ✓ 自分の意見を**しっかり考えてくれる** ✓ 自分と同じ立場で話せるから共有しやすい ✓ 普段からよくしゃべる ✓ 親以外で一番身近 ✓ 話しやすい ✓ すぐ話せる	相談しづらい人の条件 ✓ **信用できない** ✓ **秘密を守らない** ✓ **きちんと話を聞いてくれない** ✓ 自分の経験に固執する ✓ 話してもとりあってくれない気がするような人 ✓ 普段いるところの人 ✓ 身近すぎて逆に話しづらい ✓ こわい ✓ だれかわからない ✓ よくわからない

Save the Children

【まとめ】子どもが声をあげやすい環境づくりのためのポイント

✓ 子どもに「信頼」「信用」される相手とは？
　＝子どもが**「自分に寄り添ってくれている」「一緒に考えてくれている」「共感してくれている」「しっかり話を聴いてくれている」**と感じる相手とは？

✓ 子どもに「信頼できない」と思わせてしまう理由とは？：「うそをつく」「他の人にも話す」「大きな声で話す」「話が通じない」「他の人もいる場所」 等

■話をする側ができる取り組み：

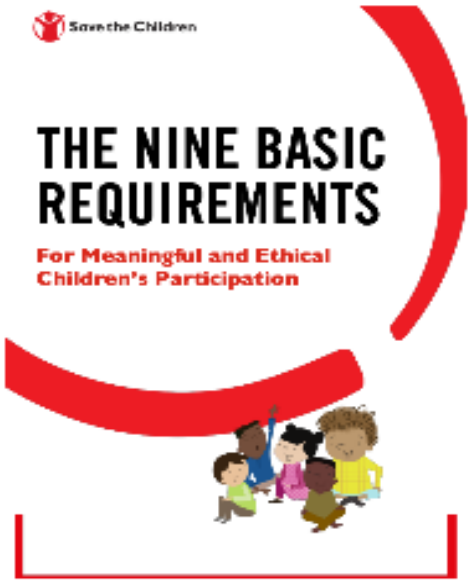
意見形成、意見表明の機会の創造と活用など

■話を聴く側ができる取り組み：

ボディランゲージ、言葉づかい、表情、質問の順番や仕方の工夫やトレーニングなど

【参考】子どもが声をあげやすい環境づくりのためのガイドライン

セーブ・ザ・チルドレン　子ども参加のための9つの基本的要件
～意味のある、倫理的な子どもの参加のために～



- ✓ 要件1　透明性があり、十分な情報がある
- ✓ 要件2　任意である
- ✓ 要件3　尊重される
- ✓ 要件4　子どもの生活に関連している
- ✓ 要件5　子どもにやさしい
- ✓ 要件6　包摂的(インクルーシブ)である
- ✓ 要件7　訓練による支援がある
- ✓ 要件8　安全であり、リスクに配慮している
- ✓ 要件9　アカウンタビリティ(説明責任)が果たされる

こちらから
ご覧ください

The Nine Basic Requirements for Meaningful and Ethical Children's Participation(2021年)を翻訳

Save the Children

Save the Children

THANK YOU!